



2018年10月10日発行

2018年10月号 (通算217号)

# 東京武蔵野多摩ワイズメンズクラブ

東京YMCA西東京コミュニティーセンター内 〒186-0002東京都国立市東1-4-20-102  
TEL 042-577-6181 FAX 042-577-5574

## 【2018~2019主題】

国際会長 ムン・サン・ボン 「Yes, We Can Change!」  
 アジア太平洋地域会長 田中 博之 「Action!」  
 東日本区理事 宮内 友弥 「為せば、成る」  
 あずさ部長 廣瀬 健 「未来はそれに備える人のものである」  
 東京武蔵野多摩会長 山口 直樹 「地域に根差した活動を! 理事と共に・YMCAと共に」

## 【クラブ役員】

会長 山口直樹  
 副会長 大輪匡史  
 書記 麻生由美子  
 小林文彦  
 会計 鈴木 誠

**I B C** Tsim Sha Tsui Y's Men's Club (香港)、Seoul Han Yang Club (韓国)  
**D B C** 神戸学園都市ワイズメンズクラブ

2018年  
9月の聖句

互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である  
(ヨハネによる福音書第15章17節)

## ワイズメンズクラブモットー

強い義務感をもとう 義務は全ての権利を伴う

## 五つの誓い

- 1.自分を愛するように隣人を愛そう
- 1.青少年のためにYMCAに尽くそう
- 1.世界的視野をもって国際親善を図ろう
- 1.義務を果たしてこそ権利が生ずる事を悟ろう
- 1.会合には出席第一、社会には奉仕第一を旨としよう

## ワイズメンズクラブの目的

- 1.個人的にもまたクラブとしても、その奉仕活動を通じてYMCAの活動を支援する
- 2.ワイズメンにふさわしい他の団体を支援する
- 3.地域社会や国際的な問題に関心を持ち、一党一派に偏らない正義を追求する
- 4.宗教・社会・経済・国際などの諸問題について会員達を啓発し、積極的に参加させる
- 5.健全な交友関係を作り出す
- 6.この協会の国際・地域・区の事業を支援する。

## 10月例会の予定

強調月間：EMC-E、YES  
 日時：10月10日(水) 19:00~21:00  
 ※東京八王子クラブと合同例会です。  
 場所：東京YMCA西東京コミュニティーセンター  
 司会：大輪 受付：伊佐、麻生  
 ドライバー：野尻

第1部：19:00~19:45  
 \*開会点鐘(会長)  
 \*ワイズソング  
 \*ゲスト・ビジター紹介(会長)  
 \*連絡・報告事項  
 \*リーダーより活動報告  
 (YVLF、全国リーダー研修会など)

第2部：20:00~21:00  
 \*懇親会  
 (グループ毎に懇親・懇談の時間)  
 \*各グループからの発表  
 \*閉会点鐘

\*今月のハッピーバースデー  
 鈴木さん(4日)  
 江夏さん(16日)  
 伊佐さん(21日)  
 野尻さん(27日)

## 9月例会報告

在籍者	12名
出席者	9名
メーキャップ	3名
出席率	100%
ゲスト	3名
ビジター	0名
ネット・コメント	0名
にこにこ	4300円

## ワイズ東日本区に異常事態発生

板村 哲也

気象の異常。スポーツ界で相次ぐ指導者と被指導者の関係の異常。そしてワイズ東日本区では入会2年半の私が次次期理事(入会5年目で理事就任予定)に選任されるという異常。区役員候補者指名委員会からの要請により私がその重責をお引き受けすることとなり、8月の臨時代議員会でご承認を頂きました。異常は3つ。

- ・2月から始まった次次期理事候補者の選定が難渋。年度内に決定されるべき候補者が新年度の第1回役員会になってもまだ決まらない(候補者なし)という異常事態。
- ・会員860人を擁する大きな組織で経験、見識が豊かな方が大勢おられる中で、ワイズに入って数年しか経たない者を理事として挙げなければいけない異常事態。
- ・理事を輩出するクラブの負担は大変なもの。会員12人のクラブが理事を出し、さらに1年置いてまた理事を出すという異常事態。

現象の裏には必ずそうなるべき本質、原因が隠れている。私が次次期理事をお引き受けしなければならないというのは異常事態で、東日本区あるいはワイズ全体が抱える多くの問題と変化の必要性を象徴していると思います。

理事をお受けして良いのかと、クラブ運営の面でも、私生活の面でも悩みました。クラブでは率直な議論が交わされました。そしてクラブの皆様には東日本区の危機的な状況をご理解いただき、これを機に区の改革を進めようということでご承諾を頂きました。

分不相応に重責を担うこととなり、甚だ僭越ですが、入会以来変化の必要性を唱えてきた者として、今回の異常事態を「めぐり合わせ」あるいは「何かのご縁」と心得、皆様のお役に立つよう誠心誠意頑張ります。どうぞ宜しくお願い致します。

10月第1例会（リーダーズスピーチ）

伊佐 節子

10月例会は、「リーダーたちから学ぶ時間」をテーマに展開。

3名のリーダーがそれぞれスピーチを行った。

佐藤友子（ミンティー）

大学5年 野外活動（ロビンソン） 家庭科の教員志望（心理学）

久保大空（クッポ）

大学4年 野外活動（ロビンソン） 英語の教員志望（言語学）

原田慧太（トムヤン）

大学6年 発達障害（すみれ） 英語の教員志望（教育学）

「若者が見る日本」をそれぞれの立場から発言

●良いところ

物があふれている / 安全 / 思いやりがあり親切なところ。 / マナーが良い。サービスの良さ。 / 勤勉・几帳面 / 食べ物 が美味しい（色々な国の料理が食べられる） / 時間に正確 / 四季がある / 便利

●悪いところ

新しい考え方や常識に対応しづらいところ / 偏見がなくなりにくい。いじめ / 学校とか社会でのルールに縛られすぎるところ 「赤信号」皆で渡れば怖くないしきの無責任さの横行 / 影響を受けやすい。 / 選挙への無関心

●話し合いの結果

悩みを相談できない環境 / 希望を持ってない社会。格差社会の広がり / 大学生活では当たり障りのない話しをする。 / 悩み相談は、大学ではなく、YMCA活動に関わる若者の中で。

●人のことを思いやるプログラムを通してして自然にできているとお聞きして、YMCA活動の大きな役割実利を感じた。

自分中心でなく、人のことを思いやる社会の広がり、より良い

社会、住みよい社会の発展に繋がります。って思う。

ユースボランティアフォーラムに参加して

山口 直樹

9月7日～9日、山中湖センターで行われたユースボランティアフォーラムに参加した。リーダー経験1・2年の若手リーダーが東日本区（北海道からの参加者は地震のため参加できなかった）から32名。若さを感じるフォーラムであった。2日目にリーダーたちに話す機会があったが、私に与えられたテーマは「今、リーダーに求められるもの」であった。違和感を覚えたため、私自身のテーマを「参加リーダーから学ぶ」として考えた。今リーダーたちが、人として、若者として、YMCAに連なるものとして何を考えているのか、何を感じているのかを聞いてみた。それぞれの活動場所でリーダーとして、若い人材として、子供たちと接したり、YMCAの活動に参加したりしていることをベースに、現状からこれから先のことを大変熱心に議論している姿を見られた。鋭い視点で様々な問題を議論している姿にこちら、前に進み改革をしていかなければとの意欲をもらえた。リーダーたちが話した内容は「今の社会の現状に関して」「障害を持っている子供たちへのアプローチについて」「リーダーとしてできることは何か」「リーダーとして何が求められているのか」「リーダーの減少に関して」など、今感じていることをベースに短い時間であったが活発な議論がなされたという印象であった。実際に活動を通して肌で感じていることを伝えてもらったと思う。一方ワイズも大変多くの方が参加していたが、参加の基本スタンスが私にはわかりづらかった。せっかくの機会であるので、ワイズも研修を受ける、また、リーダーたちから学ぶというスタンスで参加していたら、成果がもっと上がったのではないだろうか。せっかくの機会を逃している感じがして残念であった。フォーラムの基本テーマ「今、リーダーに求められるもの」を「今、ワイズに求められるもの」「今、YMCAに求められるもの」と置き換えることこそ今、求められているものではないであろうか。

しかし、このような機会が与えられ感謝である。

第5回健康増進カフェin国立

小林 文彦

開催日時 : 2018年9月15日(土) 14:00 ~ 16:00

会場 : 東京YMCA西東京コミュニティーセンター

テーマ : 「メディア病」

講師 : 江夏 一彰 さん

参加者 : 鈴木さん（ゲスト）、伊佐、野尻、麻生、山口、鈴木、大輪、小林（ワイズ） 敬称略

今回は江夏さんを講師に「メディア病」をテーマに開催しました。最近注目されているTVやスマホ、ゲームなどの電子機器（メディア）への長時間接触が引き起こす様々な症状を日本では「メディア病」と呼んでいますが、WHOでも「ゲーム依存症」と命名して正式に2022年から病気として認定する事を決定しています。

「メディア病」は幅広い世代に影響を及ぼします。非現実的映像に長時間触れることで、現実世界の中で直接顔を合わせ空間と時間の中で作られる人との結びつきの形成が阻害され、自分の気持ちを伝える事や、他人の気持ちを感じる力の発達に障害を及ぼすと言われています。

とりわけ乳幼児は大きなダメージをうけると考えられています。子供が大人になるための土台の言葉、笑顔、心を司る機能は脳の前頭葉にあります。TVを見る、ゲームで遊ぶなどの機能は後頭葉にあり、後頭葉が刺激を受ける事で前頭葉が十分に発達できない、と言うこととなります。またスマホを見ながらの「ながら授乳」などで、赤ちゃんも母親が顔を見つめ合うなどのコミュニケーションの場が奪われています。「サイレントベビー」と呼ばれる泣かない赤ちゃんも増えていますが、長時間の放置やTVやビデオばかり見せて、赤ちゃんにあまり話しかけないなど親子間のコミュニケーション不足が、「泣いても相手にしてくれない」と赤ちゃんが泣かなくなりま

す。現代生活に欠かせないアイテムである電子機器ですが、双刃の剣ともなるのでその取扱や与え方には、年代や発育に合わせて適正な与え方を考えていく事が重要な鍵となります。

次回の健康増進カフェin 国立 予告

日時 : 2018年11月17日 14時 ~ 16時

会場 : 東京YMCA西東京コミュニティーセンター

テーマ : ジェネリック医薬品 講師 : 栗原 史帆 さん

クルージング

沖津 桃

ボランティアリーダーと共に参加をしました。初めてお会いする方ばかりでしたが、みなさん優しく魅力的な方々で、緊張もすぐにほぐれていきました。パワフルでチャレンジ精神が旺盛な人々に刺激され、私もリーダーも大張り切りで次々とカヌー・カヤックに挑戦しました。翌日は筋肉痛に苦しみましたが、心身ともに充実した1日でした。

西東京YMCA便り

出沼 一弥

・第32回東京YMCAインターナショナルチャリティーラン

9月23日（日・祝）今年も障がいのある子どもたちのためのチャリティーランが都立木場公園で開催されました。ランナー、子どもたちと保護者、応援者、ボランティア、スタッフなど来場者総数は1,500人。多くの人が集まって盛大に行われました。

あおぞら・つばさの会（知的障がい児・者余暇活動）のメンバーは、武蔵野多摩ワイズと八王子ワイズの支援を受け、ランナーとして参加しました。ランナー6人は特別プログラムとして募集していますが、申込受付10分でキャンセル待ちが出るほどです。

今年の成績は48グループ中45位でしたが、DREAMS AS ONE賞（三菱商事賞）を授かりました。表彰式のとき、それぞれがのんびりとバラバラに休んでいたため、急いで舞台に向かい、大慌てでしたが、メダルをもらえたことはとても喜びになっていました。

▼10月の予定

10月8日（月・祝）第35回オール東京YMCA・近隣YMCA会員

ソフトボール大会 東京健保組合大宮運動場

10日（水）冬プログラム受付（会員優先受付）

12日（金）冬プログラム受付（一般受付）

今後の予定

10月	11月
・10日（水） 第一例会	・4日（日） 西東京センター
・20日（土） あずさ部部大会	秋まつり（第一例会）
・24日（水） 第二例会	・23-25日 YMCA大会
	・28日（水） 第二例会

その他、理事通信をご参照ください。